

令和3年度 野菜花き試験場の試験研究推進方向

技術開発の方向

- 日本をリードする研究力を活かし信州農業を革新する野菜、花き、きのこ及び畑作物の新品種、新技術を開発します。
- 野菜、花き、きのこ及び畑作物が直面している生産現場の課題を解決するための技術開発を進めます。

試験研究のねらい

I 日本をリードする研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発

- 1 魅力ある野菜、そばのオリジナル品種を開発します。
- 2 環境への負荷を軽減できる栽培管理技術を開発します。
- 3 多分野と連携した先端的な農業技術を開発します。
- 4 温暖化に対応した栽培技術の開発とともに、品種育成、環境制御技術などの開発を進めます。

II 生産現場の課題を解決するための技術開発

- 1 安定生産のための品種改良・技術開発を行います。
 - ・多様なニーズに応える大豆新品種を育成します。
 - ・耐病性、高品質、良食味で低コスト生産が可能な野菜品種を育成します。
 - ・野菜生産における減収・多収要因の解明し安定栽培技術を開発します。
 - ・花きの需要期出荷及び長時間流通に対応した品質保持技術を開発します。
 - ・きのこの害菌・害虫、生育障害の発生抑制技術を開発します。
 - ・きのこの高付加価値化技術の開発を進めます。
- 2 低コスト・省力化・軽労化のための技術開発を行います。
 - ・野菜生産の低コスト・省力化技術を開発します。
 - ・需要に対応した用途別花き生産技術を開発します。
 - ・需要に対応したきのこ生産技術を開発します。

主要課題とその内容

I-1-(1) 野菜類の魅力あるオリジナル品種の開発 (H30~R4年)

- ・高品質で作りやすい四季成り性イチゴ品種を育成します。

I-1-(2) 多様なニーズに応えるそば新品種の育成 (H30~R4年)

- ・二期作に向くそば新品種を育成し、そばの収量性向上を目指します。

I-2-(1) 野菜花きの環境保全型病害虫管理技術の開発 (H30~R4年)

- ・主要花き類における紫外光を主体とした病害虫防除技術を確立します。

I-3-(1) レタスの機械化一貫体系構築のための自動収穫機及び栽培技術の開発 (H28~R3年)

- ・レタス機械収穫に適した栽培技術を開発します。

I-4-(1) 将来的な地球温暖化がレタス生産に及ぼす影響評価と対策技術の開発 (H30~R4年)

- ・抽だいが遅く根腐病複数レースに耐病性を有する品種を育成します。
- ・レタス病害虫発生に及ぼす地球温暖化の影響評価を行います。
- ・温暖化に起因する障害克服技術と品質向上技術を開発します。

II-1-(1) 生産・実需の多様なニーズに応える大豆新品種の育成 (H30~R4年)

- ・青立ちや裂莢が少なく、多収で高蛋白な大豆品種を育成します。

II-1-(2) 野菜類高品質・耐病性品種の育成 (H30~R4年)

- ・アブラナ科野菜など葉洋菜類、ジュース用トマトの高品質品種を育成します。

II-1-(3) 夏秋どりイチゴの安定生産技術の開発 (H31~R3年)

- ・イチゴ新品種「サマーリリカル(長・野53号)」の栽培技術を確立します。

II-1-(4) 野菜の持続的安定生産技術の確立 (H30~R4年)

- ・A I 関連技術を活用した病害虫診断技術を開発します。
- ・水田転換畑での野菜安定生産に向けた最適な排水対策と適正施肥による収益性向上技術を確立します。
- ・東信地域に適する葉菜類の持続的安定生産技術を確立します。

II-1-(5) 花きの高品質・多収・安定生産技術の開発 (H30~R4年)

- ・キク類、トルコギキョウ等の計画生産、需要期出荷技術を開発します。

II-1-(6) きのこの害菌・害虫、生育障害発生抑制技術の開発 (H30~R4年)

- ・エノキタケやブナシメジに発生する害菌・害虫の検出技術を開発します。

II-2-(1) 機械利用による葉・根菜類栽培の省力化 (H30~R4年)

- ・アスパラガスの枠板式高畝栽培及び簡易自動灌水装置による省力・軽労栽培技術を確立します。

II-2-(2) 花きの低コスト・省力生産技術の開発 (H30~R4年)

- ・量販需要に対応したトルコギキョウの用途別生産技術を開発します。

II-2-(3) 露地野菜の低投入持続型生産技術 (H30~R4年)

- ・野菜栽培における可給態窒素に応じた適正施肥技術を開発します。

II-2-(4) 需要に対応したきのこ生産技術の開発 (H30~R4年)

- ・きのこの低コスト・省力栽培技術を開発します。